



# 更女しまね

第4号 2017.12.1

島根県更生保護女性連盟 松江保護観察所内 TEL (0852) 21-3767



隠岐国分寺蓮華会舞 (おきこくぶんじれんげえまい)



隠岐国賀海岸 (おきくにがかいがん)

## 更生保護と地域づくり

### 立ち直りを支えて明るい社会を



松江保護観察所長

山本 隆 宏

更生保護女性会の皆さまにおかれましては、平素から、愛の図書贈呈ほか各種の更生保護への御支援を頂いているのみならず、地域の子供たちの健全育成、保護者の方への子育て支援など幅広く地域社会のために御尽力を賜っておりますことにつきまして、まずもって御礼を申し上げます。

昨年12月に再犯防止推進法が成立施行されようやく1年が経過しました。この法律は、大半の犯罪が一部の犯罪を繰り返す人たちによってなされているという実情を踏まえ、犯罪をなくすにはいわゆる再犯を重ねる人々に焦点をあて、指導や支援を充実することで犯罪からの脱却を実現させ、めいめいが社会の一員として相応の役割や立場を得て活躍してもらおうというもので、国と県・市町村が力を合わせてこれに取り組むことが定められています。具体的な施策は今後所掌する行政機関において検討・実施が進んでいくこととなりますが、いかに行政が取り図ろうとしましても、そもそも更生とは社会で

人々が一緒に暮らす中でこそ実現できるものであり、各種の制度もその趣旨や意義が住民の方々に理解され後押しを得ることができねばその機能を発揮することができません。地域にあって更生保護に取り組んでおられる更生保護女性会の皆さまにおかれましては、引き続き御支援をくださいますようよろしくお願い申し上げます。

ところで、当県の大きな課題の一つに人口の減少・流出による地域社会の維持困難があると聞いています。そのような中、更生保護女性会の皆さまは、子どもたちに対しては、道を誤ることなく地域に愛着を持って健やかに成長することを願っての各種の事業を展開される一方、犯罪や非行をして施設に収容された者に対しては、相応の居場所と果たすべき役割を得て社会復帰を遂げることを支援しておられるのであり、これら皆さまの活動は、まさしくこの課題への一つの回答でもあると考えられるのです。これまでの御尽力に深く感謝申し上げますとともに、保護観察所としましても皆さまとともに当県の実情に見合った更生保護に取り組んでまいります。引き続きの御指導をよろしくお願い申し上げます。



## 皆さまとともに

島根県更生保護女性連盟  
会長 板倉 靖子

この度島根県更生保護女性連盟の役員改選において、図らずも「会長」という大役をお受けすることになりました。設立されて以来半世紀以上にわたって、「犯罪のない、明るく住みよい社会」を願って活動を続けてこられた諸先輩の皆様の熱い思いと、尊い歴史あるこの会を受け継いでゆく責任の重さに、身の引き締まる思いでございます。微力ではございますが、よろしくお願い致します。

先輩の皆様方の更生保護に対する深い「願い」を受けて、「愛の募金」として、更生保護女性会員に託された地域の皆様の「こころ」が、「愛の図書」となり、50年以上にも亘って各地の小中学校、幼・保育園、また、県内更生保護関係施設へ届け続けられていることは、頭が下がる思いでいっぱいでございます。

今年も島根県更生保護女性連盟の柱ともいべき「愛の募金」活動に暑い夏の最中、会員の皆様にはご協力を頂き、地域の「こころ」を関係機関にお届けできますことを大変うれしく思います。

島根県内28地区、2,600余名の会員のそれぞれの地域での活動の様子が、機関誌「更女しまね」の中で『“こころ一つに…”しまねの更女』として紹介されています。それを見ていると、活動を終えた後の皆さまの、「活動してよかったね。また頑張ろうね」という笑顔と明るい声が聞こえてくるような気がします。ひとりの力は小さくても、県内には同じ思いを持って活動をするたくさんの仲間があることを支えに、皆さまとともに力を合わせ、「更生保護」のお手伝いをさせていただきたいと思っております。



## 「地域を編む」

～更生保護女性会の継続と発展のために～

松江保護観察所  
企画調整課長 上谷 淳子

この春の異動により、4年ぶりに島根に帰ってまいりました。企画調整課長として更生保護女性会（以下「更女」という。）の皆さまと共に働くことを大変うれしく思っております。

今年は9月末に当県で中国地方更生保護女性会研修会が開催されるため、県更女の常任理事会が毎月開催されていますが、毎回とても熱心にかつ和やかに会議が進められ、大変心強く感じているところです。

また、その度に季節感や地域の話題を載せて配られる地産の果物や、会員手作りのおやつの数々から、誰かを喜ばせたいという更女の気持ちや、島根の豊かさが感じられ、私自身の学びと癒しの時間にもなっています。

現在、島根県内には28の地区があり、各地区の特性を活かしながら、さまざまな活動を展開していただいておりますが、更女には4つのキーワードがあります。

「女性」～女性の持つあたたかさ、細やかさを活かした活動をする

「更生保護」～犯罪をした人の立ち直りを支援して、犯罪予防に努める

「ボランティア」～善意をもって、自分なりの創意と工夫で活動する

「地域性」～住んでいる地域を単位に、住民や他団体と連携して心豊かな社会を育てる

4つめの「地域性」に注目したのが表題の「地域を編む」という言葉です。

これは昨年度の更生保護女性会員中央研修のメインテーマです。「編む」という言葉の意味は、糸などの材料を互い違いに組み合わせて、ひとつの形に作り上げていくことです。この言葉から感じるのは色々な糸が絡み合うことで美しく、強くなるということです。更女会員一人ひとりがきれいな色を持った糸であり、地区会でより合わせ、保護司の糸、BBSの糸、更には地域の様々なボランティアの糸と一緒に編みこむことにより、強く、美しい布を地域で広げていってほしいと思います。保護観察所としても、できる限りのお手伝いをさせていただきます。どうか楽しみながら、切れそうな細い糸は何本もより合わせて……………。

## 平成29年度 中国地方更生保護女性会員研修会に参加して

安来地区 山崎 光恵

9月28日・29日の2日間、出雲市のニューウェルシティ出雲において、中国5県から59名の会員が参加し、研修会が開催されました。



第1日目の、中国地方更生保護委員会委員長の荒木龍彦氏の「更生保護が今取り組みたいこと」という講話は、犯罪全体は減っているが、再犯は多いので再犯のないような世の中になければならないということでした。

そのためには、私たちの温かい目と心で接することが大切だと思いました。

海士町長の山内道雄氏の「ないものはない～離島からの挑戦」と題した講演では「自分たちの島は自分たちで守る」との信念でまっすぐに突き進んで来られた姿に、皆感動し勇気づけられました。

熱意・本気・やる気は何事にも通ずるものですが、特に更生保護活動にもそのまま当てはまり、私たちも自分に来ることから本気で取り組んでいきたいと感じました。県内40名の会員も加わって聴講いたしました。

各地の取り組みを聞いたグループ別の協議では、感心させられることばかりでした。今からでもすぐ取り組みそうなこともあり、とても有意義な時間となりました。

更女も高齢化が進み会員もなかなか増えない現状では活動しにくい面もありますが、今自分たちに出来ることから始めることやあせらずコツコツと続けることが大切であると感じました。そうすればおのずと知名度もついて活動も広がると学んだ第1日目の研修でした。



## 平成29年度 中国地方更生保護女性会員研修会に参加して

多伎地区 柳楽 利子

平成28年度「地域との連携・協働活動推進地区」のテーマで、日本更生保護女性連盟より指定を受けられた、倉吉地区・倉敷地区・平生地区更生保護女性会の活動実施結果報告がありました。

3地区の実施内容のテーマは同じですが、各地区の地理的、歴史的、文化的、風土、また、構成員等の実態は、それぞれ異なり、その実態に沿った、すばらしい内容の濃い発表で、参加会員の目を見張る、心に響くものでした。

実施事例発表についての学び、感想などは、参加会員の皆さんそれぞれに受け止め方が違うと思います。発表された実施活動を参考にして、自分たちの地域で、実施しようと考えられた会員もあると思います。

研究協議の後に、中国地方更生保護委員会委員長荒木龍彦氏の講話がありました。委員長は、ソフトな声で穏

やかな口調で話され、講評内容が、耳に、心に深くしみ入りました。

前日の島根県海士町長の講演「ないものはない～離島からの挑戦」のお話を取り上げ、町長さんの生き方に繋げて、更生保護女性会員のあり方について説かれました。

「更生保護女性会員は『国の宝』です。入会してもメリットが無いという人もいます。更女の活動は、ボランティア活動です。会員相互が連携し魅力ある活動にして欲しい。更女会員は、年齢ではなく、『本気、やる気、元気』3つの『気持ち』で活動していただきたい。身近に悩みや問題を抱えている人たちの心により添い『ほっとけない運動』をお願いします。」と、力説され、会員の心を強く惹きつけ、更女活動の誇りと勇気への励ましのエールに共感し、感動を覚えました。



荒木龍彦氏 講評の様子



山口県 平生地区発表

## 平成29年度 “日本更生保護女性の集い”に参加して

斐川地区 渡部 栄子

6月7日、有楽町朝日ホールで開かれた、第54回日本更生保護女性の集いに参加しました。多数のご来賓をお迎えし、全国から500名の会員が参加のもと盛大に開催されました。

はじめに日本更生保護女性連盟千葉景子会長から、次のような挨拶がありました。「更生保護の心を広め・ちょっと声をかける・手をさしのべる」ことが一番に求められている。私達の思いを活動に生かして、大いに行動しようではないか。そのためには「見る・聞く・語る」大きな力をつけて、母の心で活動することが大切であると述べられました。

はじめに辻法務省大臣官房長より、法務大臣感謝状を100名に、次に日本更生保護女性連盟千葉会長から、248

154回 “日本更生保護女性の集い”



名に連盟会長表彰状の贈呈がありました。

日本更生保護女性連盟会長表彰を頂き、心から感謝申しあげます。

この中でも法務大臣感謝状をお受けになりました島根県の鐘築章恵会長が登壇され、全国の受賞者代表として謝辞を述べられましたことは、私達島根県会員としてとても誇らしく思いました。つづいてNPO法人再非行防止サポートセンター愛媛の理事長高坂朝人氏より「自分と未来は変えられる」再非行を減らし、笑顔を増やしたいと題して記念講演がありました。

高坂氏ご自身の非行の体験から現在は非行少年の更生を支援されておられます。『13才からたび重なる逮捕で、自身はもう変われないと思っていた。しかし、自分を信じて涙を流してくれた家裁調査官や、保護司、家族などさまざまな人のおかげで立ち直ることができた。決して一人では変わらない。言葉だけではなく、心と心を共有する関係で変わることができた。』

高坂理事長のお話に感激し、これからの更女の活動に活かしていきたいと思いました。



受賞者代表として謝辞を述べられる鐘築章恵会長

## 平成28年度 保護司 更生保護女性会 BBS会員 連携強化研修会に参加して

鹿足地区 中村 俊子

平成29年2月7日、浜田市総合福祉センターに於いて、松江保護観察所主催の三者連携研修会が行われました。県西部地区から保護司18名、



更女14名、BBS3名の計35名の参加者がありました。

企画調整課長細木直久様の挨拶に続き、七つのグループに分かれ討議が始まりました。私のグループは男性2名女性2名の計4名で、初めてお会いした方ばかりでしたが、和やかな雰囲気の中で討議が進み、自分の地区の現状や感じている事など質問や意見が出ました。その中でもBBS会員の方から、このような大切な会がある事を現在の大学生や若者たちが知らないという発言があり、大変驚きました。こういった現状について、地域住民や若者、他団体に理解をしてもらうためにはどんな活動があるのか、グループで色々話し合いました。私は昨

年12月に行った日原中学校との災害学習の様子を紹介しました。この活動を通して、助け合い、ふれあい、親睦、協力の大切さを学び、連携活動が出来た事を伝えました。私のグループでは、この活動を地域へ持ち帰り社会活動に生かしたいとの意見が一致して討議を終了しました。

三者連携となるという事は中々難しい所ですが、一つ



一つの小さな活動を通して少しでも自分の役割を見つけ出すことから始めたいと、研修会に参加して改めて感じているところです。



## 平成28年度 日本更生保護女性会員中央研修会に参加して

江津地区 山脇 里美

10月25日～27日東京・市ヶ谷私学会館で「地域を編む」というテーマで開催された研修会に参加しました。初めて参加した私は、更生保護女性会の知識を深めるための良いチャンスとプラス思考で出席しました。北は北海道から南は沖縄石垣島まで約100名余の会員が集い、島根県からは1名の参加でした。

開講式は、日本更女連盟の千葉景子会長のご挨拶から始まり、「現在こそ必要とされる更女17万人の活動」と題した講話を頂きました。

一日目の研修は、行政からも援助があり、また社会福祉協議会からもスタッフの紹介があるなど、子どもに寄り添う学童保育や、学び直しの機会の場作りを実践している「子どもむら」中高生ホットステーション代表の大村みさ子様の講義でした。子供達に夕食を準備し、学習面でもサポートし「幸せ」を実感でき、ほっとできる場所作りに邁進されている活動に、頭の下がる思いで拝聴致しました。

二日目三日目の研修では、ファシリテーション協会鈴木まり子様の「地域を編むためのコミュニケーション」と題して講義がありました。一人ひとりが尊重され、存



在できる場作りを基本にし、会議・話し合いワークショップの持ち方を模擬実践しながら行なわれました。

具体的に参加者個人個人から出された問題点を、関連するテーマ別に分類し、それぞれ興味のあるグループに属し協議・検討するという手法でした。

当日出された議題は、例えば①更女会員を増やすには②末端会員までやる気を引出すには等々、提案された分野9つに分かれ熱心に協議が続けられました。

ファシリテーション技術は、参加者に提案議題を検討し、的確に答えを導いていく技術でした。

本当に中央研修に参加させて頂き、全国での更女の活動を知り得、お陰様で視野が広がりました。感謝。

最後に、出雲市出身ナースファシリテーター浦山絵里様がアドバイザーとして指導されていました。島根にお呼びして皆さんと一緒にこのような講義を受ける機会を設けたいと思いました。



## 更生保護女性会新会員研修会に参加して

江津地区 黒川 滋子

平成28年10月19日松江市の保護観察所会議室で開催された「平成28年度更生保護女性会新会員研修会」に参加させて頂きました。当日の受講生は20名で各地から参加しておられましたが、全くの新会員は少なかったようでした。各種研修会にはこれまでも何度か参加させて頂きました。

所長様、会長様のお話の中で、更生保護女性会員は、①会員である自覚を持つ ②活動に積極的に参加する ③研修会に参加する という基本的なことを聞き、新たに頑張ろうという気持ちが沸いて参りました。

中でも「自分たちに出来ることを出来るように」「小さいことからやってみる。やらなければ何も始まらない」「子供に接するときも大人がその態度、姿勢を見せて自分たちのために、頑張ってくれているのだと思われるような行動をする」「子供にとって家族や友人と同じように地域の人が見守ってくれる、助けてくれる。地域の人にも見守られて安心と思ってもらえるようになってほしい」などの言葉が印象的でした。

映像による研修では、①「日本更生保護女性連盟50周年記念大会」での皇后陛下ご臨席の様子 ②「立ち直り

を支える地域の力」で保護司の活躍、更生保護施設、BBS会や協力雇用主などの支援による立ち直りの様子 ③福岡の中学生が作ったDVD「HAND」などを視聴しました。

また、28年度県更生保護女性連盟の取り組みとして紙芝居が3種類ありますが、配役を決めるなど効果的な方法で子供たちに早く読み聞かせをしてあげたいです。

今回の研修会では、いろいろな事柄が再認識でき有意義に感じました。県内更女の活動の情報や更生保護施設「しらふじ」が建設された経緯、また「更生」という言葉の成り立ち等々を知ることが出来ました。「更」と「生」をくっつけると「甦る（よみがえる）」という字になるということです。

犯罪や非行のない明るい社会をめざして、子供たちがすくすく育つための援助をすることは私たちの大きな目標です。小さい力が集まれば大きな力になります。微力ながらお手伝いできれば幸いです。



# 第 56 回愛の図書贈呈式を行いました。



## 県更女「愛の図書」贈呈先

- 松江 刑務所
- 島根あさひ社会復帰促進センター
- 美保 学園
- 松江少年鑑別所
- わかたけ学園
- 中央児童相談所
- 出雲児童相談所
- 浜田児童相談所
- 益田児童相談所
- 島根更生保護会
- 島根県女性相談センター



## 紙芝居に出あえて

伯太地区 渡邊 慶子

私達会員90名、今までひたすら「愛の募金」集めを主な活動とし、2年に1回視察研修を行ってまいりました。この度、鐘築会長より他県での紙芝居活用のすばらしい話を聞きまし



上演中

た。さっそく役員会で話し合い、伯太の奥部、赤屋支部の学童クラブで行うことにしました。県のモデル地区となり、役員の方達の「頑張ってやりましょう」の笑顔に支えられながら活動しております。

「ま(まめ)ご(ごま)は(わかめ)や(やさい)さ(さかな)し(しいたけ)い(いも)」を合言葉に、おばあが朝ごはんを作る紙芝居「おばあ朝ごはん」を選びました。配役を決め、それぞれが自主練習をして、7月21日の本番に臨みました。初めてのことなので緊張し、皆が聞いてくれるだろうかと心配しておりましたが、案ずるより産むがやすしでした。配役を決めて紙芝居をしたので子どもたちの反応もよく、わかりやすくてよかったと

言ってくれました。

学童の指導員の方から、田舎でお米や野菜もあるし、祖父母同居の家庭も多いのに、何も食べて来ない子、菓子パンの子、おにぎり持参の子がいるという話を



耳を傾ける子供たち

聞きびっくりしました。今は、夏休み学童なので、毎朝「お早う、朝ごはん食べたかね」と声をかけるそうです。朝食抜きの子は、昼食を楽しみに待っているとのこと、本当に信じられませんが、「それが現実ですよ」と言われました。私達が実施した紙芝居「おばあ朝ごはん」が少しでも役に立ち、朝食を食べて来てくれることを願っております。

子供たちが健やかに育ってくれることを願うと同時に



感想を一言

に、この紙芝居との出会いで活動の一步を踏み出すことができましたので、伯太地区の他地区でもこの活動の輪を広げていきたいと思っております。

## 紙芝居を通して

出雲地区 川跡支部  
土江 道子

出雲市の北部に位置する川跡地区は福祉地区とも言われ、近くに県立大学看護学部とハートピア出雲障がい者児童サービスセンターがあります。会員は9名おります。

平成28年度は出雲地区更女の研修で広島県安佐南区地区と交流いたしました。そこで、「目からうろこ」と申しましょうか、素晴らしい紙芝居「ミミちゃんのとてとて」に出会いました。会員と話し合い、役作り、地区へのPR等で更女始めて以来の団結を得ることができました。

活動の手始めに、イメージキャラクターとして更生ペンギンの「保護ちゃん」と「更ちゃん」の指人形を手袋で作りました。また、音楽があればと思い米山道雄先生に曲をつけて頂き、専門の先生に情感をこめて歌ってもらい内容を盛り上げました。

さっそく、小学校の夏休み学習会（約100名）で見て頂きました。万引きする際の「子どもの心理状態」と「その後の大人のケア」がこの紙芝居

のポイントで、子供たちは目を輝かせて見てくれました。

その後、幼稚園からも、是非上演してほしいと依頼があり、年末に地区のコミセン運営委員会と幼稚園保護者会、同推協とのコラボで、出雲児童相談所の木谷健二先生を招いて、紙芝居をもとに講演をして頂きました。

講演後、木谷先生を囲んでグループ討議をしました。お母さん方は自分の日常生活に置き換えて真剣に話し合っておられ、討議中涙を流される場面もありました。

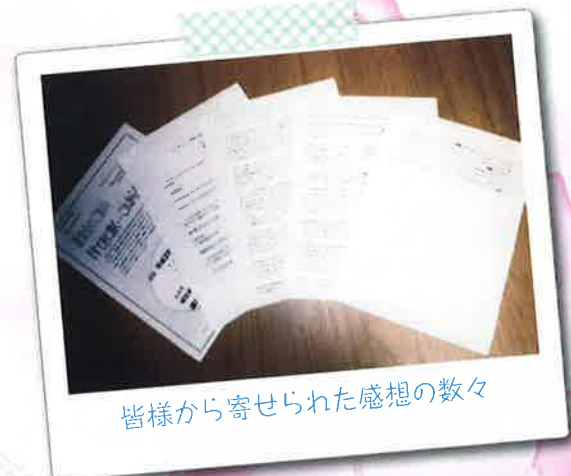
アンケートにもたくさん回答を頂きましたが、その中に「講演会の紙芝居を見て日々の生活を振り返るとてもよい時間になりました。更生保護の皆さんに感謝します」と書いてありました。今までの努力が報われた思いがしました。本当に励みになり、これからも地道な活動を頑張って続けていこうと思います。



上演中の会員

手袋で作った指人形  
ホゴちゃんとサラちゃん

米山道雄先生に作曲してもらいました



皆様から寄せられた感想の数々

“こころ一つに…” しまねの更女

文通プログラムと受刑者が今思うこと

浜田地区 岩谷 藤子

島根あさひ社会復帰促進センターに於いて3月5日「再犯防止ワークショップ」が開催されました。

内容は、センター内の訓練生に実施されている「教育プログラム」の説明と、地域住民が更生を願ってできた「文通プログラム」の発表でした。センターの開設以来9年間続け、更女の基本理念の罪を犯した人の更生を援助し明るい社会づくり活動に沿って参加しています。

文通は、訓練生と4回やりとりをし、5回目には訓練生からまとめの決意が贈られ胸を熱くし涙します。

私は常に母親の立場で、理屈や説教ではなく心から語り合う温かな気持ちで文通し、最後の便りには必ず「あなたは一人ではありません。心から応援し見守っている私がいることを忘れないでください。」と書きます。

社会復帰する訓練生を温かく迎え入れる社会であることを願っています。



～受刑者が今思うこと～  
訓練生作文集を読み終えて

浜田地区 森田 玲子

訓練生作文集の、優秀賞と認定された19名の方すべての内容に感動いたしました。

センター内の各々のプログラムを通して、自分のこれからの生き方、今までしてきたことへの反省、家族やまわりの方への感謝の心等、今自分が向き合わなければならぬ課題に真剣な取り組みの様子が伝わってきました。

ご指導の先生や職員の方の温かく厳しい接し方やご苦勞も伝わってきました。これもひとえに旭町の大自然と地域の方々の愛も大きな力だと思います。

社会復帰や多くの課題の中で、充実した日々を送られるよう、心から応援しています。



江津本町地区の子供と食事を楽しむ会

江津地区 高橋百合子

江津本町に在住する郷田小学校の児童のすこやかな成長を願い、年4回地域の人の作る食事を提供しています。楽しく賑やかに過ごすことを目的として、本町地区更生保護女性会と社会福祉協議会本町支会、本町有志の会の共催で、江津本町夢街道交流館で開催しました。

**第1回** 平成28年12月22日(木) 午後6時～7時30分  
献立…カレーライス、野菜サラダ、お菓子  
参加者…30名(小学生12名、保護者等7名、スタッフ11名)

**第2回** 平成29年3月24日(金) 午後6時～7時30分  
献立…バラ寿司、ポテトサラダ、吸物  
参加者…32名(小学生14名、保護者5名、スタッフ13名)

学年と名前を自己紹介した後、美味しかったの感想を聞き、民生委員さんが主となって簡単なゲームをして子供達は大喜びで、大人も童心に返って楽しんでいました。江津市の更生保護女性会では初めての試みで

した。本町更生保護女性会10名の会員ですが、社協本町支会の資金面での協力、地元の皆さまのお力添えを得てつつがなく終了することができました。次回は7月20日を予定しておりますが、今後とも地域の皆さまの協力を得て、この活動を続けていきたいと思っております。

近年、家族団らんの食事が減り、子供の孤食・個食、高齢者の孤食など食生活も多様化しています。心身の成長や体調不良、情緒の不安定など直面する問題もありますので、出来るだけ食事を共にし、食事は楽しいものという良さを知ることが大切であると考えます。



第1回 カレーライス



第2回 バラ寿司



## 母衣小学校とのサークル交流会

松江地区 城東支部 成合 千恵

城東支部には視覚障害者施設「しのめ寮」がありました。寮生の作業品を活かして更女の皆で葉を作り、小学校の卒業祝いとして贈りました。この三者の交流を「トライアングル交流会」と呼び小学校の先生方やしのめ寮の方々の協力により続けてきましたが、施設が宍道町に移転したためこの活動は終了しました。その後新しい生活に向かう子供達に良い経験となると考え「サークル会」と呼称し通算16年間母衣小学校と交流を継続しています。

内容は卒業間近の6年生全員に更女の活動を分かり易く話します。子供達には保護観察所から頂いた「社会を明るくする運動」のパンフレットを事前に配布してありますので、更生保護の話にも熱心に聞き入り、



理解してくれている様に思います。更に「自分を大切に、人も大切に」のメッセージを貼った手作りの葉と、梟のぬいぐるみを一人ひとりに声をかけながら渡します。「梟は不苦労とも言い換えられる縁起ものです。私達は針の糸通しが難しくなったけれど、皆さんの幸せを祈りながら縫ったのよ」と話すと、嬉しそうな笑顔を見せてくれます。

会の終わりには子供たちからの合唱のプレゼント。思わず胸が熱くなる一瞬です。

後日「罪を犯した人は自業自得だと思っていたが、立ち直ろうとする人々を支え再犯を防ぐのはとても大切な事だということが分かった」「反省し償おうとしている人を支える人になりたい」など、子供達の率直な感想文が送られてきました。今後も交流会を続けようという思いが強くなりました。



## あいさつ運動

八東地区 渡部天津子

八東地区の更生保護女性会は、会員が23名であいさつ運動の活動を行っております。

活動する日は、毎月第3週の月曜日から金曜日までの5日間です。2名ずつ、朝7時半からあいさつ運動と書いてある帽子を被り校門に立ちます。

小中一貫教育校八東学園の校門は、石段になっており、生徒達は、石段の両脇から登校して来ますので、更女会員2名



が、声かけしております。生徒の方から「おはようございます」と声かけがあったり、恥ずかしそうにして、声かけしてくれたりします。時には、後ろ向きになっていて、顔が合っても挨拶してくれる生徒もいます。その瞬間、心の中で、とても嬉しくなりました。

学園長先生も必ず立たれるので、立派なあいさつが

出来ましたと報告します。

又、野球部の生徒が、校門の前を走る車に、あいさつをします。私達も、この姿には感動させられました。

あいさつが出来ると生徒の顔も違う様に見えます。はつらつと元気そのものです。私達も、負けずに大きな声であいさつを行っています。

八東学園の生徒が、この学園を巣立っていても、この校門であいさつ運動をしてきた事を思い出して、何処でも大きな声と笑顔であいさつが出来る事を願っています。

これからも、出来る限りあいさつ運動を頑張ろうと思っています。



## 地域とのふれあい活動

邑智地区 美郷支部 波多野いち子

美郷支部は、四季折々の表情を見せる美しい山々に囲まれ、その間を一級河川の江の川が流れています。

更生保護女性会は、各地域の行事には諸団体と連携し、微力ながら協働活動をしています。

そんな中、私の住む地域では、毎年吾郷地区社会福祉協議会の主催行事で、敬老の日に「ふれあい学級」を行っています。対象は70歳以上の一人暮らし、75歳以上の高齢者の方たちです。普段なかなか交流の場に出かけにくいので、7地区の皆さんが1ヶ所に集まり、1日ゆっくりおしゃべりして、笑顔になって楽しんでいただきたいと願っての活動です。地区社協役員、連合自治会役員、民生児童委員、婦人会、各団体役員、更女会員で

す。マイクロバスで迎えに行き、歌、踊り、おまわりさんの「オレオレ詐欺」についての話、



子ども神楽など、スタッフの演芸ショーで楽しんでいただきます。今年は、子ども神楽の参加もあり、一生懸命舞う子どもさんにあたたかい拍手を送っていました。昼食は、手づくり弁当を準備し、「おいしい」と喜んでいただきました。最後はみんなでビンゴゲームで一気に会場が盛り上がり、景品を楽しみに元気な声と笑い声で一つになりました。皆さんを送って行き楽しい1日が終了しました。

これからも地域との連携をしながら、一つ一つの場所での交流を大切に、私たちができることから場づくりに協力し、ふれあい活動をしていきたいと思っています。



## 水源地まつり

地域との連携・協働活動

斐川地区 出西支部 野津 澄子

私たちの住む出西地区は、斐伊川をはさみ旧出雲市に隣接しています。かつては、斐伊川の伏流水を飲料水に利用し、それが出西生姜の名産を生み出しています。

豊富な水は、宍道町まで送られるほどで、その水に感謝する祭典が昔から行われています。近年、「水源地まつり」と改称され、今に至っておりますが、毎年

1,000人前後の人出でにぎわっております。

更女の会員も地域の女性の役員さんと一緒に活動し、この祭りを盛り上げています。当日は、50食分のソーメ



ンをゆで、販売しております。また、少子高齢化が進む中、各地域で盛んに行われていた盆踊りを伝承しようと親御さんの協力を得て、5回の練習を重ねて本番に臨みます。子供たちは、大人と一緒に大はしゃぎ、賑やかに練習をします。地域でのつながりの希薄化が問題になっている昨今ですが、このような交流をはかることにより、絆は強まっていくことと思います。

地域の皆さんの仲間として活動し、心地よさを感じることができました。更女として、地域の活動に耳を傾け参加して、仲間を増やしていこうと思います。

## ふれあい祭で啓発活動を

大仁地区 仁多支部 渡部 洋子

仁多支部阿井地区では、平成21年より毎年11月に行われる「阿井ふれあい祭」で、更生保護女性会の啓発活動を行っています。

私達が活動している阿井地区でも御多分に漏れず、高齢化率36.1%と4人に1人が高齢者となり、一人暮らし、老夫婦世帯が多くなってきました。その為これまでのように「愛の募金活動」も家を訪問すれば協力してもらえる状況ではなくなってきました。「私達も年金暮らしだから」「うちには子供がおらんけん」などという声が聞かれるようになりました。

会員一同「何とかしないとこれでは活動できない」「私たちがどんな活動をしているのか皆さんに知ってもらわなければならないか」と平成21年11月「阿



井ふれあい祭」の展示会場の一角に、活動の写真や更生保護女性会の活動目標を展示しました。それ以来毎年ふれあい祭に、「愛の募金」のお礼も兼ねささやかな手作りの品を添え、啓発活動を行っています。また最近では、募金活動時にも手作りの品を添えて啓発活動をしています。更生保護女性会の活動に対し、地域の皆さんからは「普段の生活では気の付かない縁の下の力持ち的な活動であることを知りました。」「展示を見て更女の活動を理解することができました。」「地道で根気のいる活動で、大変なご苦労があると思います。」「社会が明るく一人ひとりが明るく生きられる活動の源を育てて下さる更女の活動に感謝します。」と嬉しい励ましの声に会員一同更なる活動を頑張りたいと思っております。



## 通学合宿によせて

益田地区 安田支部 松崎恵美子

朝の交通安全の見守りの時子どもたちから、

「おばちゃん、通学合宿は、いつから」と声をかけ、待てる子どもがいます。

昨年で、16回目を迎え婦人会と協力して、なにかできる事はないかと模索していた時、通学合宿の話聞く機会がありました。これだったら私達にも出来るのではないかと、小学校、公民館、社会教育課に相談し実施しました。最初は、お寺で3泊4日から始め、2回目からは、公民館で5泊6日の日程で取り組みました。社会人になった方、結婚され子育て中の方などからも、通学合宿に参加した時の気持ちを綴ったお手紙を頂きました。その中でも、地域の方の協力で、【もらい風呂】【ホームステイ】をしたことが、心に残っているようです。参加延べ人数、350人が体験者となりました。

地域の良さ、親のありがたさを知り、友達との関わ



りを学ぶ体験型合宿は、楽しいばかりではなく途中で泣き出した子どもさんもいました。けれども「来年も来るよ」と言ってハイタッチし、その翌年も笑って参加してくれ、スタッフの励みになりました。

参加者もスタッフにも、色々なドラマがありました。最終日には充実感を味わうことが出来ました。私たちにできる青少年健全育成のひとつではないかと今年も計画を立てています。



料理作り



## 平成29年度 表彰おめでとうございます

平成29年6月7日に有楽町朝日ホールで行われた第54回“日本更生保護女性の集い”では、法務大臣感謝状・日本更生保護女性連盟会長表彰状が贈呈されました。また、平成29年11月15日に開催された島根更生保護大会では、中国地方更生保護委員長感謝状・中国更生保護女性連盟会長表彰・松江保護観察所長感謝状の授与が行われました。表彰されました皆様、おめでとうございます。

### 平成29年度被表彰者

○法務大臣感謝状

出雲地区 鐘築 章恵

○日本更生保護女性連盟会長表彰

安来地区 福田 瑞枝

斐川地区 渡部 榮子

大社地区 錦織 栄子

浜田地区 岩谷 藤子

○中国地方更生保護委員会委員長感謝状

23名

○中国地方更生保護女性連盟会長表彰

28名

○松江保護観察所長感謝状

136名



第54回“日本更生保護女性の集い”  
受賞者と参加者の皆様

### ◆表紙写真説明◆ 島根県隠岐郡隠岐の島町

隠岐国分寺蓮華会舞（おきこくぶんじれんげえまい）

平安時代から1200年の時を超え、地元住民により継承されてきた舞、国指定重要無形民族文化財です。毎年4月21日に隠岐国分寺本道前の特設舞台で奉納の舞が公開されています。

隠岐国賀海岸（おきくにがかいがん）

西ノ島の西海岸一帯で、変化に富んだ大規模な海蝕涯が続きます。とくに摩天崖は257m垂直にそそり立ち、上部一面の緑地では牛馬が放牧されています。

## 編集後記

「更女しまね」第4号の校正も大詰めに近づいた10月、日本列島を強風域でほぼ覆いつくす超大型台風に見舞われ、また衆議院議員総選挙とも重なり心身ともに穏やかならざる日を過ごしました。

当たり前のことですが、家庭でも地域でもいつも平穏とは限りません。日々変化していく毎日を大切に臨機応変に、しなやかに、この地で生きていてよかったと思える地域になるよう協力していけたらと感じました。

玉稿を賜りました松江保護観察所長様、企画調整課長様はじめ皆様に厚くお礼申し上げます。

編集委員長 江角 佳子

編集委員 板倉 靖子 野津イマ子 樋野 淑美

杉山 悦子 山脇 里美 高木禮為子

題 字 鐘築 章恵

